



さとうきよあき

佐藤清明とは (1905~1998)

「清明(せいめい)さん」の愛称で親しまれた岡山県浅口郡里庄町出身の博物学者です。生涯を通じて、妖怪や動植物の方言などの民俗学をはじめ、植物学、動物学、鉱物学などでマルチな才能を発揮しました。「知られざる知の巨人・佐藤清明」の生涯と業績をご紹介します。

◆佐藤清明の業績パネル/里庄の植物写真パネル

◆『現行全国妖怪辞典』オリジナル本(1935年)など



初公開!あの大植物学者からの贈り物

◆貝標本展示 (倉敷市立自然史博物館蔵)

謎の貝...今その正体が明らかに!

1938年、スタンフォード大学のスケネク博士(後にGHQの天然資源局長官)に佐藤清明が瀬戸内海産の貝類標本を提供した返礼品として贈られたアメリカ西海岸の貝類標本。

| 博物学

岡山県内の自然全般にわたる調査研究

化石・岩石・鉱物・昆虫・植物など、岡山県内の自然全般を対象とした調査研究や文献・標本の収集を精力的に行う。これらの成果は、教育普及活動や著述にも生かされている。

◆植物標本展示

(倉敷市立自然史博物館蔵)

ヤクシマダケ(イネ科) 鹿児島県屋久島 牧野富太郎から贈られた50点の竹笹類標本のひとつ。

| 植物学

1万点の植物標本を採集

多岐にわたる研究分野の中でも、特に植物には深い関心を寄せ、自ら植物採集を行うとともに、北海道から沖縄まで各地の研究者たちと標本を交換し、約1万点に及ぶ貴重なコレクションを築き上げる。また、県内各地の植生調査や植物方言の集成、植物に関する幅広い研究を行う。

| 民俗学

日本で初めての妖怪事典『現行全国妖怪辞典』を出版(1935年)

柳田國男に先駆け、全国各地に残る妖怪の名称を集めて妖怪事典として発表する。また、メダカやオタマジャクシ、スミシなどがそれぞれの地方でどう呼ばれているのか調査し、方言集にまとめる。

| 多くの文化人との交流

牧野富太郎(植物学者)、柳田國男(民俗学者)、南方熊楠(博物学者)などと標本や書簡のやりとりなど活発な交流をする。

| 天然記念物の調査・研究

天然記念物の調査を継続的に行い、自治体の天然記念物関係の出版物に多く関わる。岡山県文化財専門委員として文化財総合調査を行う。

鏡野町産
県指定天然記念物
ナナイロガシ
(七色檜)



国指定特別天然記念物
オオサンショウウオ